

「全鍍連」 2023年 10月号 いきいき地域

全鍍連情報・国際委員 岩田 圭祐 (株)東洋 取締役)

「いきいき地域」

コロナ禍前の海外視察研修では大変お世話になりました。茨城県鍍金工業組合の東洋の岩田です。

私自身は東京の下町で生まれ育ち、大学卒業後は工業薬品メーカーに4年半お世話になった後、現在の会社に入社しました。つくば市民となって早9年が過ぎようとしております。

入社当時は聞き取れなかった茨城弁も、今となってはたまに標準語を忘れるほど、つくばにどっぷり浸かった生活を送っています。そこで今回の寄稿にあたり、つくば市について調べてみました。

当社が構えるつくば市は街としては新しく、茨城県の南部に位置し1987年11月に5町村が合併し新生つくば市として誕生し、その後は隣接する筑波町と荃崎町を統合し、現在のつくば市の形となりました。

人口については市政開始当時157千人に対し、2023年4月現在では253千人と1.6倍に増加しております。また、研究員として多くの方が東京などから転入していますが、住民票を移していない方も多いため、実際の数字はこれより更に多いようです。

この人口増加には2005年に開通したつくばエクスプレスにより、つくば～秋葉原間が1時間と都心へのアクセスが容易となったことが一番挙げられます。

さらに主要駅周辺には大型のショッピングモールや緑地帯が多いこと、都市開発により主要道路の道幅も広く、高速道路（常磐道、圏央道）へのアクセスが容易なこと、そして都内からの転入者には都内と同価格で敷地面積が約2倍の戸建が購入できることなども人気の理由のようです。

その結果、三菱UFJ不動産販売(株)が行った住みよさランキングでは全国7位にランクインし、特に30代の若い家族が多く転居されているようです。

交通以外に目を向けると、茨城県のゴルフ場設置数は全国で第5位であり、昨今の女子プロ人気も相まって、中には自治体もゴルフ場直結のインターを建設するほどの力の入れ様です。さらに休日には野菜などの直売店や圏央道に隣接する道の駅には都心から来た観光バスでにぎわっております。

一方、良いことばかりではなく、圏央道開通による大型物流倉庫の乱立や工業団地新設により、有効求人倍率が3倍近くになるなど、人手不足に拍車がかかっております。さらには急激な人口増加により、新住民と以前からの住民と間に近隣トラブルが多いのが実情のようです。

情報委員としてはまだまだひよっこなため、皆様のご指導ご鞭撻をいただきたいと思いますので、今後ともよろしく願いいたします。

